

ふる里農村公園「グリーンビレッジ横川」・農業振興/都市農村交流将来ビジョン

施設の 今後のあり方

見直しのうえ存続
(指定管理者制度
等の公有民営)

理由

- ①町民・地域との関わりがある公共性が高い施設と認められる
- ②運営スタッフの努力でリピータやファンも増加傾向、令和4年度以降、利用者も回復傾向
- ③国庫補助事業の処分制限期間 令和11年度まで(かやぶきの館)
- ④指定管理者制度による12期の運営実績があり、民営による収益向上の成果が見られる
- ⑤直営に戻すと運営費用が増加、人材確保・運営ノウハウの再習得等運営に支障をきたす懸念
- ⑥立地等で収益性が低く、施設維持のための設備投資に多額の費用を要するため民間譲渡の可能性が低く、民有民営では施設本来の目的達成が困難

＜かやぶきの館及び周辺施設のあり方検討委員会報告＞

目指すべき 施設像

- ①田舎志向・ふるさと薬膳提供による癒しと憩いの場
- ②四季折々の辰野産食材・農産物の提供、PRの場
- ③地元農家、町民が活躍できる場
- ④地元の農家や町民と触れ合い、交流できる場

目指すべき 利用者像

- ①町民(日帰り飲食・入浴、会食、地元土産の購入)
- ②ファミリー層(地産地消、地元産を好む自然志向派)
- ③シニア層(素朴な田舎の良さを好むふるさと志向派)
- ④農家(農業指導、有機農産物や郷土食、食材の提供)

定量的目標 達成指標

- ①年間利用者数【かやぶきの館】
宿泊3,500人 日帰9,000人 入浴27,000人
(R5:宿泊3,401人、日帰8,929人、入浴26,718人)
【よりあい工房】500人(R5:414人)
【土恋処よこかわ】11区画契約(R5:9区画)
- ②利用者満足度【かやぶき】4.6以上維持(R5:4.6)
- ③地元食材(加工品含む)の仕入率
食材10% 販売10%(品目ベース)

定性的目標 達成指標

- ①地元農産物のPR・販路拡大で有機農業を推進
- ②よりあい工房についての町民の認知度向上
- ③農業体験・交流による中山間地域の活性化
- ④運営を通じ町民や農家、地域と施設の関係性を深める

参考) 有機農業実施計画(令和5～9年度)

＜理念・目標＞辰野町農産物のブランド化と6次産業化、学校給食への普及

- 環境にやさしい農業に取り組む販売農家100戸
- 環境にやさしい農産物関連のふるさと納税返礼品40品目
- 辰野町産環境にやさしい農産物のPRを図るイベント等の継続開催 など

主な課題と解決策

開業から25年経過、施設等の老朽化も進み、町民の利用が減、利用者ニーズや設置目的と現状の差異が生じている

【課題】

- 地域・町の活性化につながる施設として位置づけの見直しが必要
- 町民や農家との関りが薄くなっている
- 冬期間の利用者数の落ち込みが大きい
- 立地・設備面で採算性が悪く、今後物価・人件費の増が見込まれる
- 施設・設備の老朽化が進み、いずれ大規模な改修や更新が必要

【解決策】

- ビジョンや管理運営コンセプトを町と指定管理者間で確認し公表
- 町民・農業関係団体、地域との意見交換の場を設け、運営指標を共有
- 冬期の施設全体または一部サービスの休業等を検討(提案により)
- 指定管理料は通常期を基本に公募し、賃金・物価上昇を加味し設定
- 令和11年度までに、その後の活用・あり方を長期的に継続検討